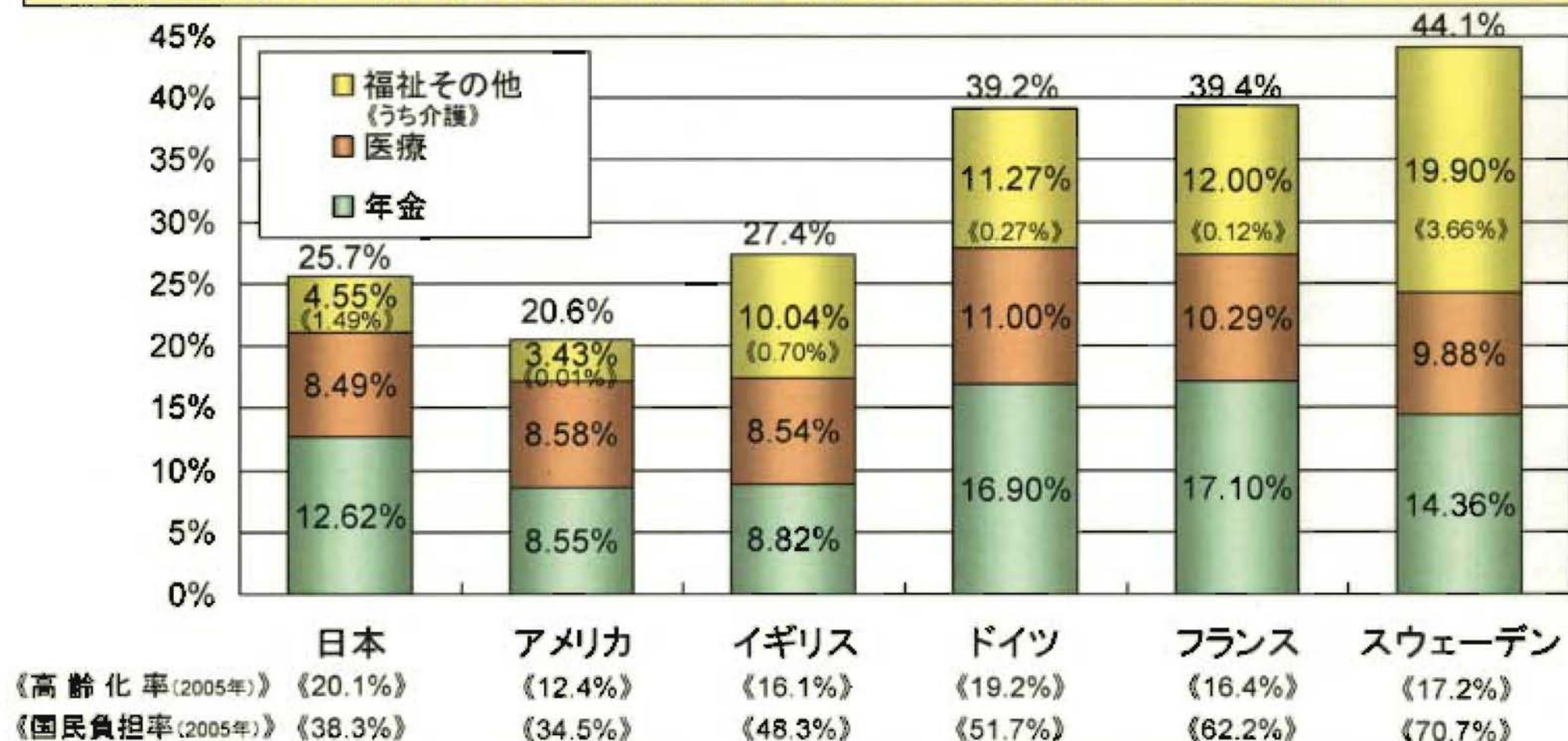


社会保障給付の部門別の国際的な比較(対国民所得比)

資料11

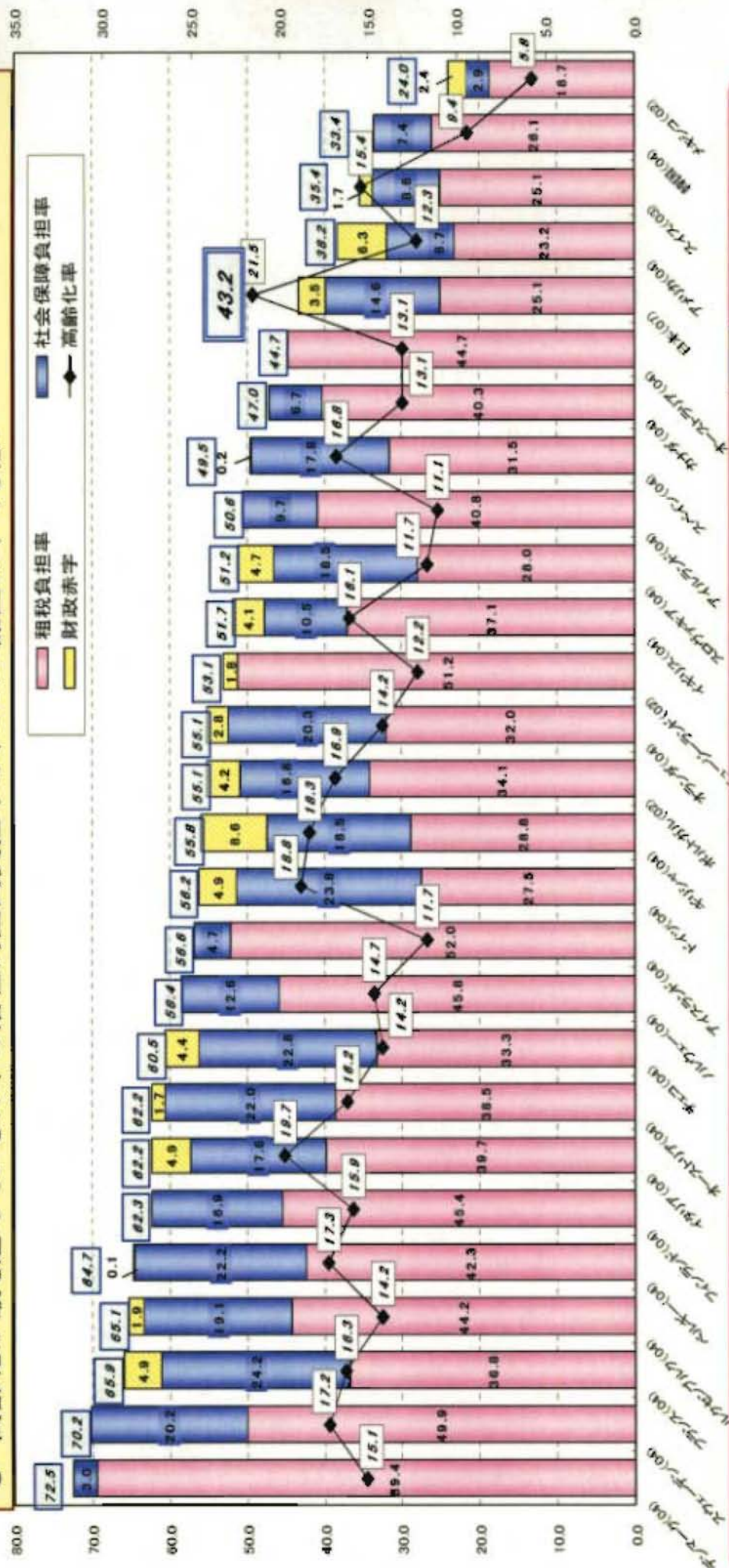
○ 我が国の社会保障給付の規模を部門別に比較すると、

- ・ 年金 — 米英を上回るが、他の欧州諸国をやや下回る規模
- ・ 医療 — 米英とほぼ同規模、他の欧州諸国をやや下回る規模
- ・ その他の給付 — 米国を上回るが、欧州諸国をかなり下回る規模 となっている



(注) OECD: "Social Expenditure Database 2007"等に基づき、厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官室で算出したもの。いずれも2003年。
 OECD社会支出基準に基づく社会支出データを用いているため、社会保障給付費よりも広い範囲の費用(公的住宅費用、施設整備費等)も計上されている。
 高齢化率は OECD: "OECD in figures 2007"、国民負担率は財務省調べによる(なお、日本の2008年度の国民負担率は40.1%(見通し)。)

○ 高齢化が最も進んでいる日本の潜在的国民負担率は、OECD諸国の中でも低い



校主張國の型採用するすに品類食び及重説漢(獨説増題)は

1:日本の07年度の係数は見通しである

2. 国民負担率は、租税負担率と社会保障負担の合計、四捨五入の関係上、係数の和が合計値と一致しないことがある。

と、國氏眞理中は、租税眞理中とは雲泥隔天の別。眞理中の六人の國博士、陳獻可和が、四十五歳に達した。ポーランド、ハンガリー及びトルコについては、係数が足りず、國氏負担率が算出不能であるため掲載していない。

4. 高齢化率については、日本は2007年の推計値を、諸外国は2005年の推計値を仕組している。

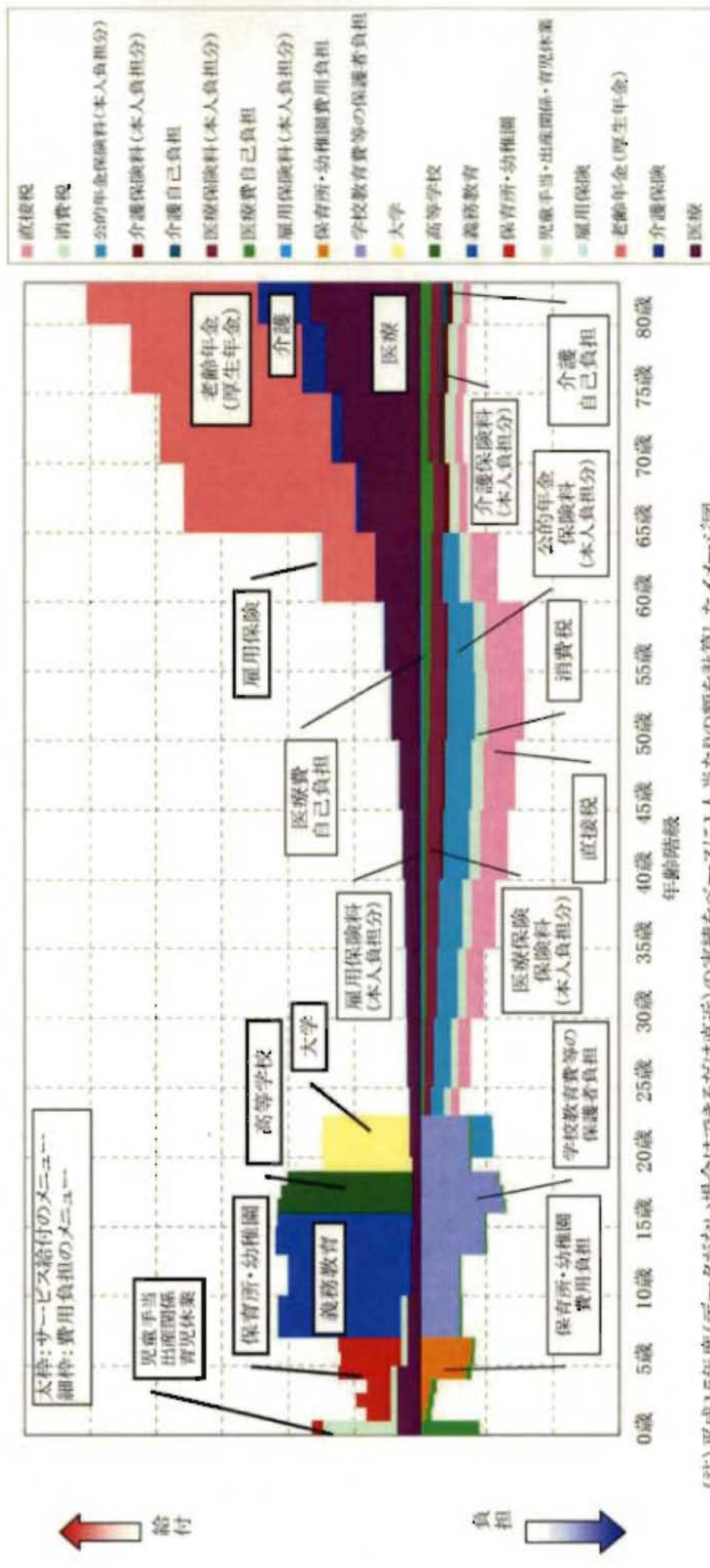
【出典】・(国民負担率) 日本：平成19年度予算案ベース、諸外国：National Accounts 2006 (OECD) Revenue Statistics (OECD) 表、掲載記事については、日本は2007年の推計値を、諸外国は2005年の推計値を掲載している。

（国民負担率）日本：平成19年度予算案「一六、歳入歳出：National Accounts（OECD/Revenue Statistics（OECD）（高齢化率）日本：「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）、諸外国：World Population Prospects 2006 Revision（UN）

が置かれている(例：ニューヨーク市8.375%)

1 人の生涯から見た社会保障の給付と負担の姿

資料13



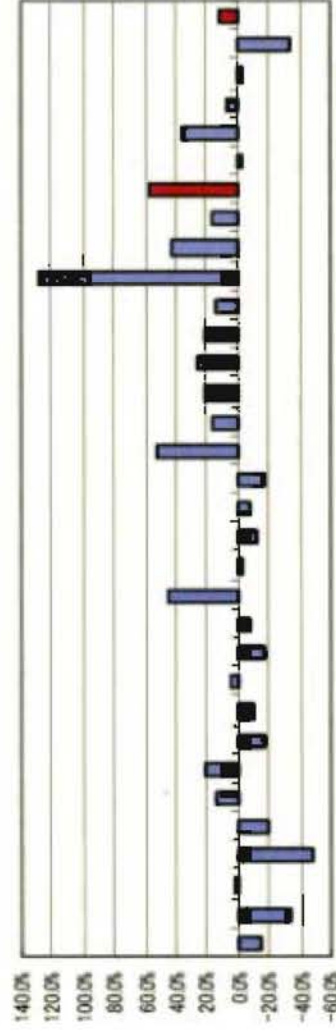
(注) 平成15年度(データがない場合はできるだけ近い)の実績をベースに1人当たりの額を計算したイメージ図

産業としての社会保障分野

社会保障分野の総波及効果

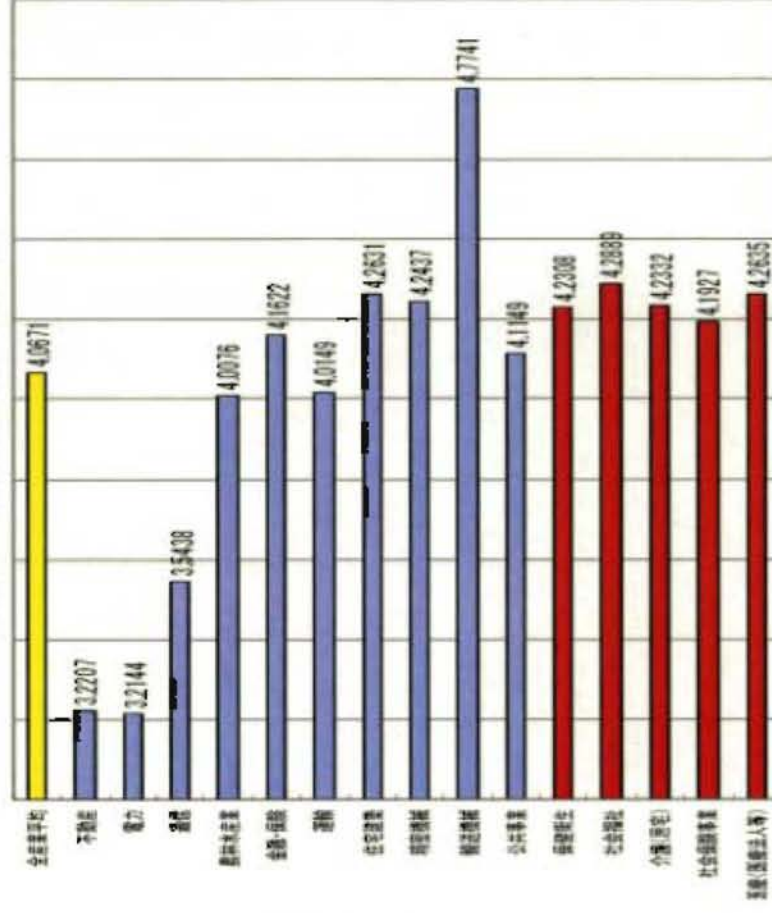
産業別の国内総生産額を見れば、社会保障分野は平成2年から12年までの10年間における全産業平均の伸び率が11.1%であったのに対し、社会保障分野の伸び率は56.1%であった。

国内生産額（実質）の産業別の伸び
（平成2年→平成12年）から



本館、東京、大阪、神戶、名古屋、京都、福岡、札幌、仙台、青森、秋田、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、高松市、愛媛県、高知市、佐賀市、大分市、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県。

産業連関表による総波及効果



年份	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100																																																																																																																																							
人口	115000	116000	117000	118000	119000	120000	121000	122000	123000	124000	125000	126000	127000	128000	129000	130000	131000	132000	133000	134000	135000	136000	137000	138000	139000	140000	141000	142000	143000	144000	145000	146000	147000	148000	149000	150000	151000	152000	153000	154000	155000	156000	157000	158000	159000	160000	161000	162000	163000	164000	165000	166000	167000	168000	169000	170000	171000	172000	173000	174000	175000	176000	177000	178000	179000	180000	181000	182000	183000	184000	185000	186000	187000	188000	189000	190000	191000	192000	193000	194000	195000	196000	197000	198000	199000	200000	201000	202000	203000	204000	205000	206000	207000	208000	209000	210000	211000	212000	213000	214000	215000	216000	217000	218000	219000	220000	221000	222000	223000	224000	225000	226000	227000	228000	229000	230000	231000	232000	233000	234000	235000	236000	237000	238000	239000	240000	241000	242000	243000	244000	245000	246000	247000	248000	249000	250000	251000	252000	253000	254000	255000	256000	257000	258000	259000	260000	261000	262000	263000	264000	265000	266000	267000	268000	269000	270000	271000	272000	273000	274000	275000	276000	277000	278000	279000	280000	281000	282000	283000	284000	285000	286000	287000	288000	289000	290000	291000	292000	293000	294000	295000	296000	297000	298000	299000	300000	301000	302000	303000	304000	305000	306000	307000	308000	309000	310000	311000	312000	313000	314000	315000	316000	317000	318000	319000	320000	321000	322000	323000	324000	325000	326000	327000	328000	329000	330000	331000	332000	333000	334000	335000	336000	337000	338000	339000	340000	341000	342000	343000	344000	345000	346000	347000	348000	349000	350000	351000	352000	353000	354000	355000	356000	357000	358000	359000	3600

出典：「平成2-7-12年接続産業連関表」（総務省）より、厚生労働省社会保障担当参事官室にて作成。

出典：「医療と福祉の産業関係に関する分析報告書」書誌研究誌研究
16.12 財団法人医療経済研究・社会福祉協会 医療経済研究
機構）より、厚生労働省社会保障担当参事官室にて作成。

